

# 日本国内におけるチャリティーショップの普及と、地域の拠点として社会的価値を高める活動

活動地域  日本全域

つづける助成  
**3年目**  
知識の提供・普及啓発

CSへの理解の深まり	<b>100%</b>
RR勉強会参加者数	<b>30人</b>
今年度計画の達成度	<b>80%</b>
目標達成度	<b>80%</b>



「チャリティショップ白書」

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

「CS白書」制作にあたっては、CSの形態や運営方法は運営する団体ごとに大きく異なるため、データとしてまとめるのは難しかった。

### ■ 工夫した点

CSの価値や魅力が伝わる内容、デザインとなるよう心掛けた。現状だけではなく、今後の可能性についても言及し、さらなる価値向上に役立つものとした。

## 課題

チャリティショップ (CS) は、収益による社会貢献活動や不用品リユースの受け皿等様々な価値があるが、日本では数が極めて少なく、市民にほとんど認知されていない。

## 目標

日本にCSが普及し、利用する市民が増え、リユースによる資源循環が進むと同時に、運営団体が良好な財政基盤の上で、より充実した社会貢献活動を展開できるようにする。

## 活動内容と成果

- 日本におけるCSの現状を数値化し、社会貢献活動についてまとめた「CS白書」を発行した。今後は他セクターの組織や個人などにCSの価値を伝えるツールとして活用していく。また、CS関係者にとっても、今後のCSのあり方を考え、価値をより高めていくためのツールとする
- CS講演会を開催し、CSの認知度を高めることができた。また、JCSN (日本チャリティショップ・ネットワーク) に加盟していない団体にも参加を呼びかけ、関西地域におけるゆるやかなネットワークに繋がっている
- CS運営/開設等に関する問い合わせ8件に情報提供を行った



2019年度CSフォーラム・分科会の様子

## 全助成期間の活動を振り返って

講演会やフォーラム、勉強会の開催や「CS白書」の発行を通じて、他セクターの組織や有識者等との繋がりがうまれたことは大きな成果となった。また、活動を通じて、加盟団体同士の交流がより深いものになり、スキルや情報の共有などが行われるようになった。課題としては、広報活動が十分に行えなかったこと等があげられる。



2019年度チャリティショップ・アワード

〒461-0002  
愛知県名古屋市東区代官町39-18日本陶磁器センタービル  
5階 中部リサイクル運動市民の会内  
E-mail: jimur@charityshop.jp  
HP: <https://www.facebook.com/JapanCharityShopNetwork/>



## 今後の展望

今後は、「CS白書」を持って関係省庁、企業などを訪問してCSの価値を伝え、連携につなげたい。情報発信については、2021年度よりCSの概要と魅力、意義を幅広い世代にわかりやすく届けることができる動画を作成し、HPに掲載する予定である。またFacebookでは、テーマを設定して、CSの販売品を使ったコーディネート工夫を、CSごとに一定期間掲載することを企画中である。